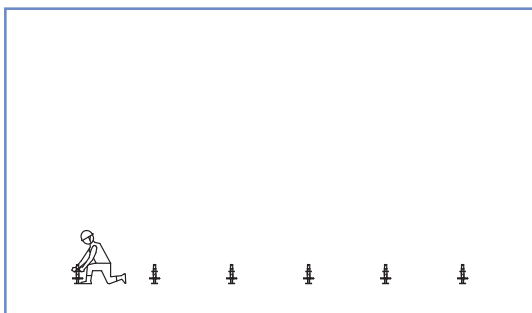
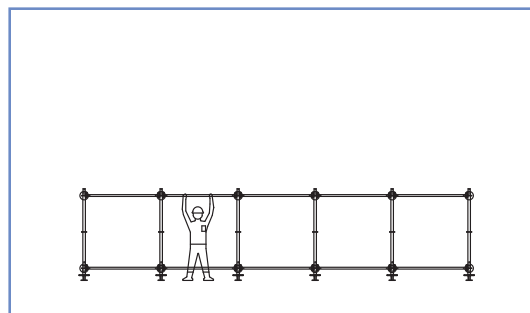


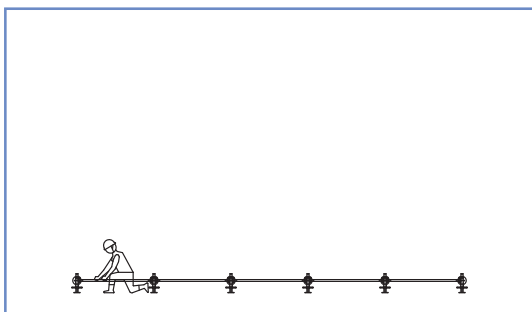
OK サポート組立手順



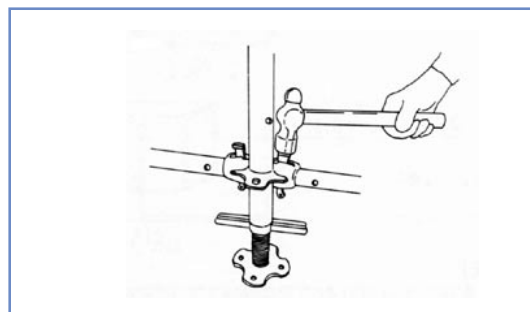
1. 設計図に基づき、ジャッキベースを所定の位置に配置し、支柱 OKSS-2 を差し込みます。



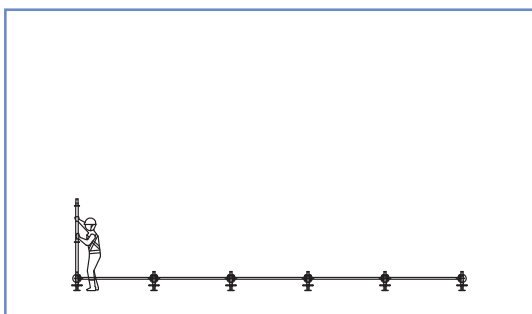
5.1 段目の支柱の上部フランジに水平つなぎ材を取り付けます



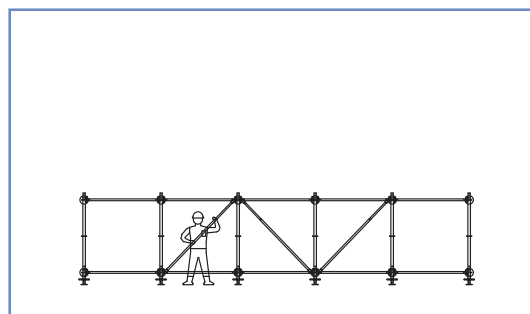
2. 支柱のフランジに水平つなぎ材 (OKSH-) を取付けます。このとき、水平つなぎ材のクサビは仮止め状態にしておきます。



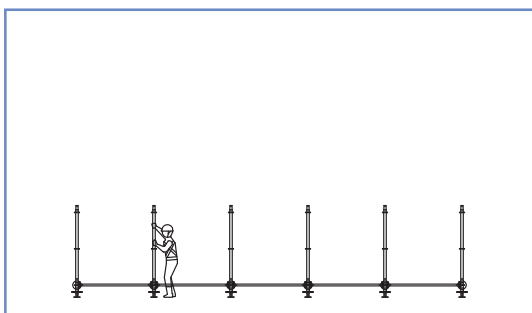
6. 計画図に基づき、所定の位置に筋かい (OKSB-) を取り付けます



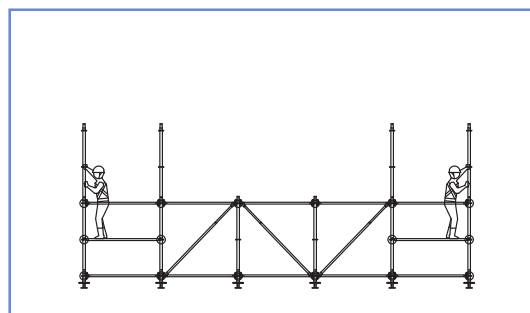
3. レベル調整を行い、支柱の通りを確認します



7. 支柱 OKSS-2 に取り付けられた水平つなぎ材のクサビを、ハンマーで2～3度打ち込みます。



4. 支柱 OKSS-2 に1段目の支柱 OKSS-17 を差し込みます。

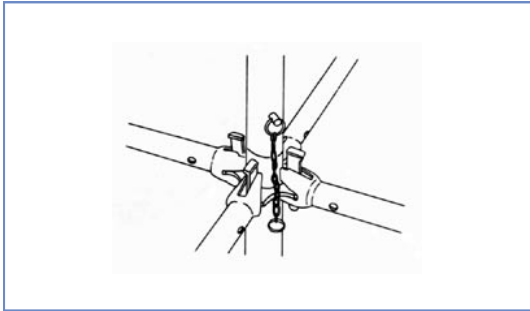


8. 両端1スパン部の下段の中間フランジ位置に足場板を設置し、上段の支柱を差し込みます。

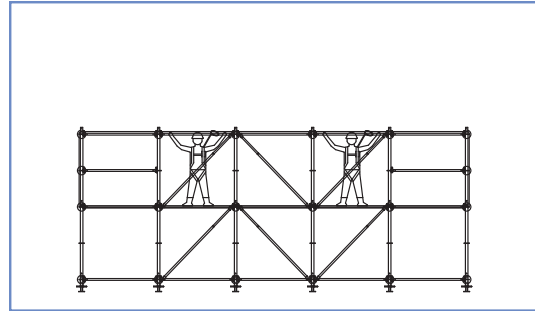


OK サポート組立手順

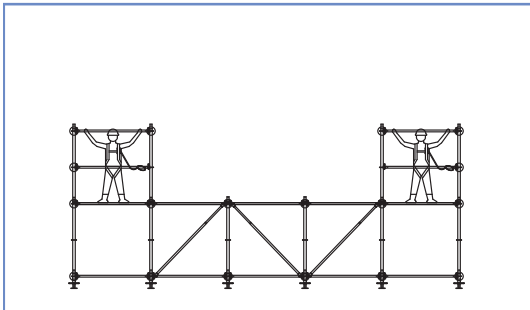
OK サポート組立手順



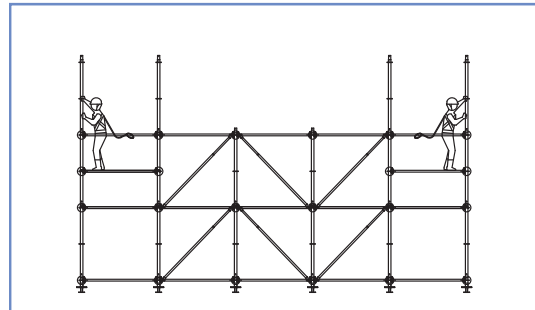
9. 支柱の継手部には、支柱抜け止めピンを取り付けます。



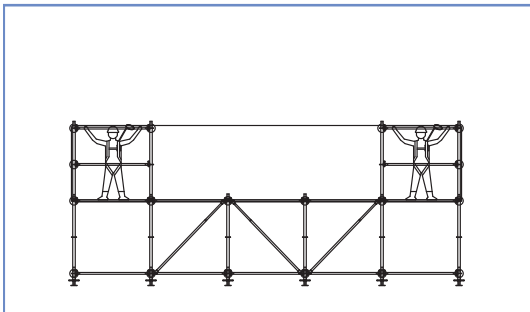
13. 親綱に安全帯を取り付け、上段の残りを組み立てます。



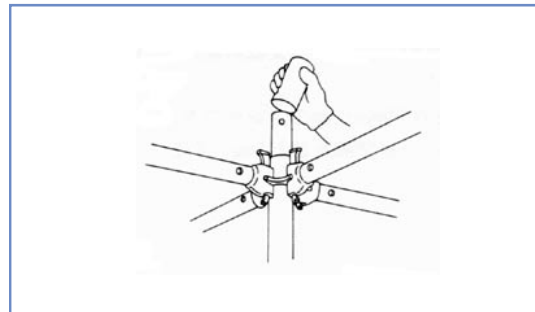
10. 差し込んだ上段の支柱の中間フランジに水平つなぎ材を取り付けます。



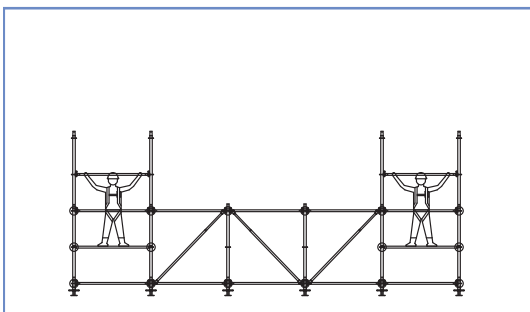
6. 計画図に基づき、所定の位置に筋かい (OKSB-) を取り付けます



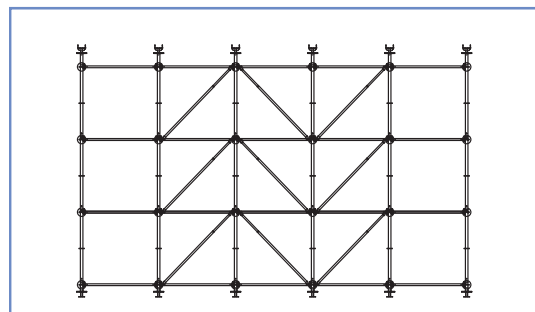
11. 下段の上部に足場板を設置し、移動します。支柱の中間フランジの水平つなぎ材に安全帯を取り付け、上部フランジに水平つなぎ材を取り付けます。



15. 最上部の支柱のホゾに、大引受ジョイントを取り付けます。



12. 支柱の上部フランジの水平つなぎ材に安全帯を取り付け、下段の支柱の上部フランジより最上部に親綱を張ります。



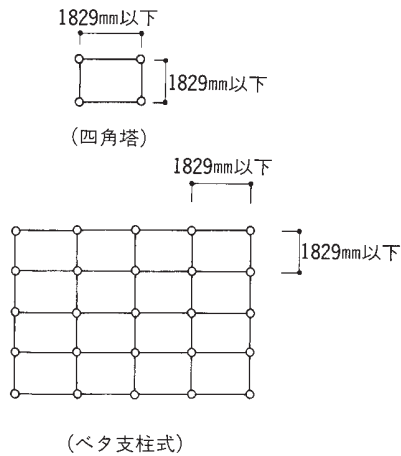
16. 大引受ジョイントに、大引受ジャッキを取り付けて完成です。



OK サポート組立基準

1. 支柱間隔

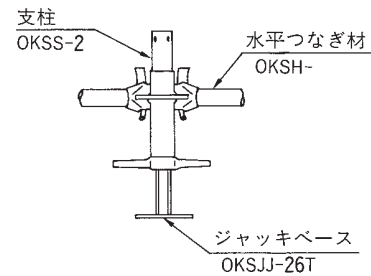
ベタ支柱式、及び四角塔の支柱間隔は1829mm以下とする。



2. ジャッキベース等

支柱の最下部に支柱OKSS-2を、さらにその下端にジャッキベースを使用し、各支柱のレベルを正確にそろえるものとする。

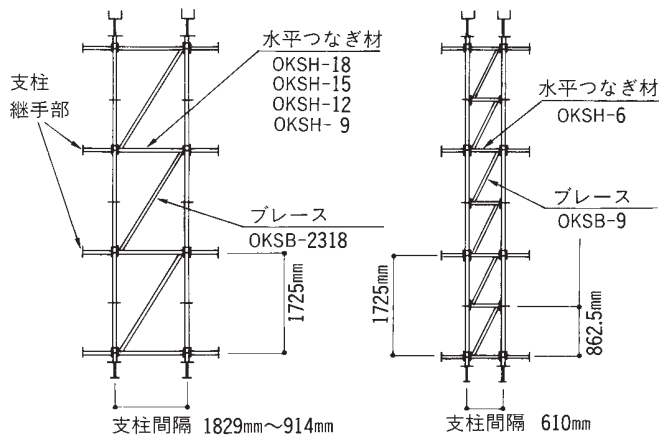
また、組立後ジャッキベースのハンドルに遊びのないことを確認すること。



3. 水平つなぎ材の垂直間隔

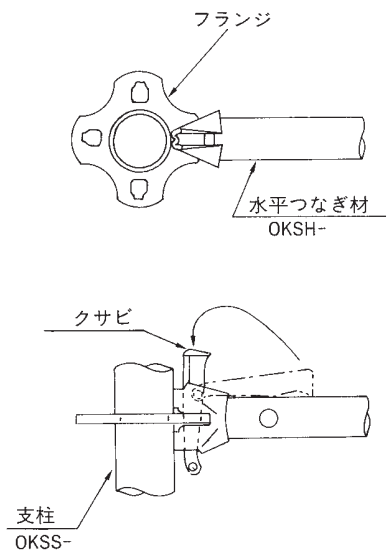
水平つなぎ材は支柱の下端 (OKSS-2) 及び垂直間隔1725mm以下毎、かつ支柱の継手部付近に設けるものとする。

但し、支柱間隔610mmでブレースを取り付ける場合は水平つなぎ材間隔を862.5mmとする。



4. 水平つなぎ材の取り付け

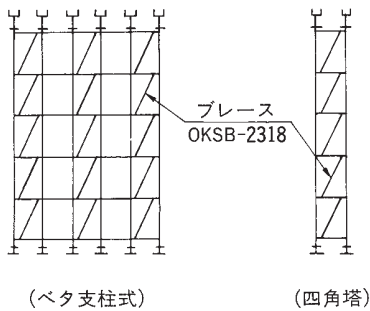
水平つなぎ材の取り付けは、水平つなぎ材両端のクサビが支柱のフランジの正しい位置に納まっていることを確認した後、ガタがないようにクサビを十分に打ち込むものとする。



OK サポート組立基準

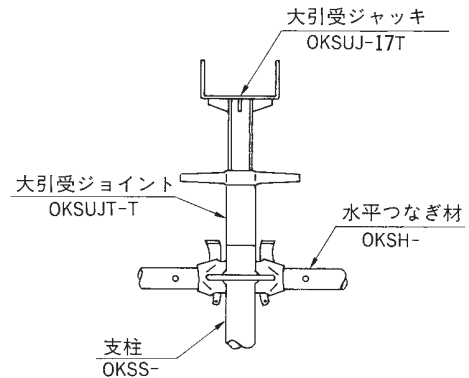
5. ブレース

ベタ支柱式の場合は各行、及び各例の構面内に「使用基準」の許容荷重に応じたスパン以下毎に、また四角塔の四構面には全高にわたってブレースを取り付けるものとする。



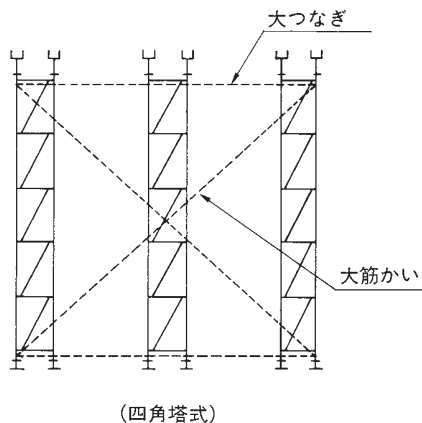
6. 大引受ジャッキ等

支柱の上端には、高さ調節と解体時の応力解放のため、大引受ジャッキを使用し、その取付部には必ず大引受ジョイントを取り付けるものとする。また、組立後大引受ジャッキのハンドルに遊びのないことを確認すること。



7. 水平変位の拘束

四角塔式の場合は、5層以下毎に大つなぎ、及び大筋かいを設ける等の方法により水平変位を拘束するものとする。



8. ブラケット支柱

ブラケット支柱の支柱部上部及び下部に水平つなぎ材を直角2方向に設け、支柱との継手部には支柱抜け止めピンを取り付けるものとする。また偏荷重が生じる使用においては、筋かいを設ける等の方法により水平変位を拘束するものとする。

